

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
山陰中央専門大学校	平成18年2月9日	大島宏美	〒690-0001 島根県松江市東朝日町75-12 (電話) 0852-31-5500																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人坪内学園	昭和44年11月8日	坪内浩一	〒690-0001 島根県松江市東朝日町74 (電話) 0852-31-1500																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
教育・社会福祉	専門課程	介護福祉士学科	平成28年文部科学省 告示第18号	-																			
学科の目的	現代社会の要望に応えた専門的な教育により、職業人(介護福祉士)として必要な知識及び技能を修得させるとともに、国家資格や各種資格を取得させ、社会に貢献出来る優秀な人材を育成する。																						
認定年月日	平成29年 2月 27日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2	昼間	119単位	52	56	11	0	0																
年	単位																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
70人	17人	0人	3人	3人	6人																		
学期制度	■前期:4月1日～7月31日 ■中期:8月1日～11月30日 ■後期:12月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、課題等の評価資料に基づいて総合的に定める。基準は次の通り。 「A(優)」90～100 「B(良)」80～89 「C(可)」70～79 「D(不可)」70未満																			
長期休み	■学年始め :4月6日 ■夏季休業日 :8月1日～8月31日 ■冬期休業日 :12月26日～1月7日 ■学年末休業日:3月12日～		卒業・進級 条件	・卒業:H29年度入学生は112単位以上 H30年度入学生は119単位以上の教育時間 数を修得すること。 ・進級条件:各年度に設定された単位及び教育時 間数を修得すること。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に保護者面談、三者面談を行っている。 又、必要と思われる学生に対し、随時、個別面談を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動・部活動・部活動遠征 山陰中央フェスタ実行委員会 ■サークル活動: 有																			
就職等の 状況	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 福祉施設(介護老人福祉施設・グループホーム・身体障害者施設) ■就職指導内容 授業科目を事業所関連とし、施設種の説明、履歴書や自己紹介書の指導・就職ガイダンスの開催を行っている。また、計画を立て、全学生の面接練習を行っている。 ■卒業生数: 7 人 ■就職希望者数: 7 人 ■就職者数: 7 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 % ■その他 ・進学者数: 0人		主な学修成果 (資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日 時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>介護福祉士</td><td>①</td><td>6人</td><td>6人</td></tr><tr><td>ケア・コミュニケーション検定</td><td>③</td><td>7人</td><td>5人</td></tr><tr><td>ビジネス検定 ジョブパス3級</td><td>③</td><td>7人</td><td>5人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～ ③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得 するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし				資格・検定	種別	受験者数	合格者数	介護福祉士	①	6人	6人	ケア・コミュニケーション検定	③	7人	5人	ビジネス検定 ジョブパス3級	③	7人	5人
資格・検定	種別	受験者数	合格者数																				
介護福祉士	①	6人	6人																				
ケア・コミュニケーション検定	③	7人	5人																				
ビジネス検定 ジョブパス3級	③	7人	5人																				
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 平成29年4月1日時点において、在学者16名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者16名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 中途退学者がいないため、特記なし。 ■中退防止・中退者支援のための取組 随時面談や家庭訪問を実施するなど、学校、学生、学生保護者の連携を密にしている。		■中退率 0 %																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 <input checked="" type="checkbox"/> ※有の場合、制度内容を記入 ①指定校推薦入試(入学金50,000円～100,000円免除:初年度のみ) ②一般推薦入試(入学金20,000円免除:初年度のみ) ③特待奨学金付与制度(授業料200,000円～300,000円付与:初年度のみ 進級時に特待再選考試験あり) ④上級資格取得者奨学金付与制度(授業料20,000円付与:初年度のみ) ⑤学業支援授業料減免制度(授業料200,000円免除:毎年 他の同学年と合わせて定員8名) ⑥父母兄弟姉妹入学金免除制度(入学金100,000円免除:初年度のみ) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 <input checked="" type="checkbox"/> ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 <input checked="" type="checkbox"/> ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科の ホームページ URL	http://www.sicc.ac.jp																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学先

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

<p>1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係</p> <p>(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針 学生の主な就業先である社会福祉施設等における人材の専門性に関する動向、社会情勢、また企業等の成長や変化に伴い必要となる新たな知識、技能等を企業等との連携により授業カリキュラム内に取り入れる。企業等参加の公開授業の実施・授業後のアンケート及び意見交換、学生の実務実習、教員研修といった授業・実習・研修を介して、企業等の意見・要請を得る。この意見・要請を基に、教育課程編成委員会により、現場との温度差のない、専門的で実践的な職業教育を行うための授業内容及びカリキュラムを作成していくことを目的とし、基本方針に掲げている。</p> <p>(2) 教育課程編成委員会等の位置付け 教職員研修会により研修（校内教職員研修、公開授業企業参観、教員インターンシップ、関係者団体研修、専修各種学校関連団体等研修）の実施結果を踏まえ、学科教員でカリキュラムの見直し案を作成。研修結果及び教員からの意見に加え、業界の動向や本校関係諸情報の収集等をし、年に2回開催される教育課程編成会議（教育課程編成委員で構成）にて諮る。教育課程編成会議で出されたカリキュラム改善に対して意見をご提案頂き、定期的な職員会議にて教育課程の編成に反映させることを検討し決定したものについては導入。今以上に実践的な教授内容を実施する。</p> <p>(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成30年5月1日現在</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">名 前</th> <th style="width: 30%;">所 属</th> <th style="width: 20%;">任 期</th> <th style="width: 20%;">種 別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目次 宗生</td> <td>社会福祉法人 松江市社会福祉協議会</td> <td>平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>出羽 雄二</td> <td>社会福祉法人 山陰家庭学院</td> <td>平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>杉谷 倫紀</td> <td>医療法人社団 回春会</td> <td>平成29年7月1日より 平成31年3月31日 （1年8か月）</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>坪内 浩一</td> <td>学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校</td> <td>平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大島 宏美</td> <td>学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校</td> <td>平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鴨山 郁子</td> <td>学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校</td> <td>平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。） ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p> <p>(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 （開催日時） 平成28年度 ・10月26日 15:30～（開催） ・2月7日 15:30～（開催） 平成29年度 ・10月18日 9:00～（開催） ・2月14日 15:30～（開催） 平成30年度 ・10月、2月 開催予定</p> <p>(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 委員会より学生の知識・技術の向上や、文章力の向上について意見が出た。既存のシラバス・教案を見直し教育内容の改善に取り組んだ。その他にも、委員会から出た意見を実際に活用しカリキュラムを編成している。</p>				名 前	所 属	任 期	種 別	目次 宗生	社会福祉法人 松江市社会福祉協議会	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）	①	出羽 雄二	社会福祉法人 山陰家庭学院	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）	③	杉谷 倫紀	医療法人社団 回春会	平成29年7月1日より 平成31年3月31日 （1年8か月）	③	坪内 浩一	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）		大島 宏美	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）		鴨山 郁子	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）	
名 前	所 属	任 期	種 別																												
目次 宗生	社会福祉法人 松江市社会福祉協議会	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）	①																												
出羽 雄二	社会福祉法人 山陰家庭学院	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）	③																												
杉谷 倫紀	医療法人社団 回春会	平成29年7月1日より 平成31年3月31日 （1年8か月）	③																												
坪内 浩一	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）																													
大島 宏美	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）																													
鴨山 郁子	学校法人 坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日より 平成31年3月31日（2年）																													
<p>2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係</p> <p>(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 介護実習を通して社会福祉施設の実情に触れ、就職の意識を高め、学習への理解、専門分野の能力を伸ばすことを基本方針としている。また、より現場に則した知識や技術を得るために、目指す就職先の関連施設より講師としてご来校いただくなどしている。</p> <p>(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 本校と企業とが協定書を締結し、学生は社会福祉施設や事業所の現場で指導を受けながら、介護実習として58日間現場で学習し、学校で学んだ理論と技術を直接実践の場で体験学習することで理解を深めている。日々の業務内容や反省点などを学生自身で記録し、加えて実習先担当者より評価及び指導を受け、その結果に基づいて次の実習へと繋げている。さらに、体験し学んだ内容をレポートとしてまとめ、後日授業にて発表し、学習の理解を深めている。</p> <p>(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">科 目 名</th> <th style="width: 40%;">科 目 概 要</th> <th style="width: 40%;">連 携 企 業 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護実習Ⅰ</td> <td>基本的な介護技術を確認し、多職種協働や関係機関との連携を通じ、在宅介護サービスにおける介護福祉士の役割を知る。</td> <td>通所介護学園デイサービス、通所介護ライフケア回春苑、通所介護津田通所介護センターほか</td> </tr> <tr> <td>介護実習Ⅱ</td> <td>介護福祉士の役割について総合的に理解し、根拠ある介護技術を実践する。また、介護過程の流れを学び、介護計画の展開を理解する。</td> <td>特別養護老人ホーム津田の里、特別養護老人ホーム昭光の里、特別養護老人ホームあいサンホーム ほか</td> </tr> <tr> <td>福祉・社会Ⅰ</td> <td>芸術鑑賞及び考察、発表会、スポーツ大会、事業所関連、手話講義・演習を通してマナーの大切さやチームワークを学ぶ。また、専門職に対する理解を深める。</td> <td>鳥根県立青少年の家 社会福祉法人 回春会 ほか</td> </tr> <tr> <td>福祉・社会Ⅱ</td> <td>芸術鑑賞及び考察、発表会、スポーツ大会、事業所関連を通してマナーの大切さやチームワークを学ぶ。また、専門職に対する理解を深める。</td> <td>社会福祉法人 松江福祉公社 ほか</td> </tr> </tbody> </table>				科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	介護実習Ⅰ	基本的な介護技術を確認し、多職種協働や関係機関との連携を通じ、在宅介護サービスにおける介護福祉士の役割を知る。	通所介護学園デイサービス、通所介護ライフケア回春苑、通所介護津田通所介護センターほか	介護実習Ⅱ	介護福祉士の役割について総合的に理解し、根拠ある介護技術を実践する。また、介護過程の流れを学び、介護計画の展開を理解する。	特別養護老人ホーム津田の里、特別養護老人ホーム昭光の里、特別養護老人ホームあいサンホーム ほか	福祉・社会Ⅰ	芸術鑑賞及び考察、発表会、スポーツ大会、事業所関連、手話講義・演習を通してマナーの大切さやチームワークを学ぶ。また、専門職に対する理解を深める。	鳥根県立青少年の家 社会福祉法人 回春会 ほか	福祉・社会Ⅱ	芸術鑑賞及び考察、発表会、スポーツ大会、事業所関連を通してマナーの大切さやチームワークを学ぶ。また、専門職に対する理解を深める。	社会福祉法人 松江福祉公社 ほか													
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等																													
介護実習Ⅰ	基本的な介護技術を確認し、多職種協働や関係機関との連携を通じ、在宅介護サービスにおける介護福祉士の役割を知る。	通所介護学園デイサービス、通所介護ライフケア回春苑、通所介護津田通所介護センターほか																													
介護実習Ⅱ	介護福祉士の役割について総合的に理解し、根拠ある介護技術を実践する。また、介護過程の流れを学び、介護計画の展開を理解する。	特別養護老人ホーム津田の里、特別養護老人ホーム昭光の里、特別養護老人ホームあいサンホーム ほか																													
福祉・社会Ⅰ	芸術鑑賞及び考察、発表会、スポーツ大会、事業所関連、手話講義・演習を通してマナーの大切さやチームワークを学ぶ。また、専門職に対する理解を深める。	鳥根県立青少年の家 社会福祉法人 回春会 ほか																													
福祉・社会Ⅱ	芸術鑑賞及び考察、発表会、スポーツ大会、事業所関連を通してマナーの大切さやチームワークを学ぶ。また、専門職に対する理解を深める。	社会福祉法人 松江福祉公社 ほか																													

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員に対し、企業・関係施設・業界団体等との連携を通じ、現場の最新の知識及び技能を習得させるとともに、職務の遂行に必要な能力及び資質等の向上を図ることを目的とした研修のために年間計画を立てて実施していくことを基本方針とする。学校法人坪内学園山陰中央専門大 学校教員研修諸規程にも目的として掲げている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

教員インターンシップ: 介護福祉士学科教員が介護福祉施設や事業所にて、インターンシップを実施
介護技術や医療的ケアの実践について学んだ。
実施日: H29年8月22日、8月23日

② 指導力の修得・向上のための研修等

本校教員対象の公開授業: 企業関係者、学校長、介護福祉士学科教員が参加。
授業公開後、教員の教授方法や授業内容などについて、企業関係者より意見を頂き、授業改善を行った。
実施日: H29年6月16日、7月21日、11月17日

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

教員インターンシップ: 介護福祉士学科教員が介護福祉施設や事業所にて、インターンシップを実施。
介護技術や地域との連携の実践について学ぶ。
実施期間: H30年8月16日、17日

② 指導力の修得・向上のための研修等

本校教員対象の公開授業: 企業関係者、学校長、介護福祉士学科教員が参加。
授業公開後、教員の教授方法や授業内容などについて、企業関係者より意見を頂き、授業改善を行う。
実施日: H30年6月15日、7月20日、11月16日

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育活動その他の学校運営について、目標の達成状況や取組の適切さなどを評価し、学校としての組織的、継続的な改善を図ること、評価結果の公表・説明責任を果たし、企業、保護者、地域住民などから理解と参画を得て、学校・企業・団体・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること、評価結果に応じて改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保障し、その向上を図ることを目的とし、基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	基準1教育理念・目標・育成人材像
(2) 学校運営	基準2学校運営
(3) 教育活動	基準3教育活動
(4) 学修成果	基準4教育成果
(5) 学生支援	基準5学生支援
(6) 教育環境	基準6教育環境
(7) 学生の受入れ募集	基準7学生の募集と受け入れ
(8) 財務	基準8財務
(9) 法令等の遵守	基準9法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	基準10社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育活動及び学校運営において委員から評価は概ね高く、今後もひきつづき、より職業実践に即した教育活動及び学校運営となるよう意見を頂戴している。意見の活用状況については、ホームページに収支計算書など財務関係情報を公開したことがあげられる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
江江 みづほ	松江市役所 総務部	平成29年6月1日～平成31年3月31日(1年9か月)	地域の地方公共団体の関係者
舟木 誠一	一般社団法人 鳥根県自動車整備振興会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校の専門分野における
内田 真理	社会福祉法人 坪内宝珠会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校の専門分野における 業界関係者
目次 宗生	社会福祉法人 松江市社会福祉協議会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校の専門分野における 業界関係者
永島 一雄	学校法人 永島学園	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	中学校、高等学校等の 校長、進路指導担当者等
日野 修一	昭商事株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	地域住民
青山 祐一	山陰中央専門大 学校 PTA会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	PTA
錦織 澄	税理士法人 錦織会計事務所	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校運営に関する専門家
田中 健	ネットヨタ鳥根株式会社	平成30年2月1日～平成31年3月31日(1年1ヶ月)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()) URL:www.sicc.ac.jp	
5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係	
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 企業との連携にあたり、本校ホームページ等にて、建学の精神、教育目標、学生のキャンパスライフなどに加え自己評価結果等を公表し情報提供している。また、学校行事である山陰中央フェスタや公開授業にご参加いただき、アンケートの実施、意見交換などを行うことで本校の情報を提供している。情報提供することにより、企業等の関係者が本校についての理解を深めるとともに、学校がより実践的な学習の場となることを目的及び基本方針として位置付けている。	
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ●建学の精神、学科教育目標、学年教育目標、特色 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革 ●その他諸活動に関する計画(就職活動計画、年間行事計画)
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●入学者に関する受け入れ方針、入学者数、収容定員、社会人入試 ●カリキュラム(科目、単位、授業時数) ●進級、卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準など) ●取得目標資格、検定 ●就職内定率、卒業後の進路(就職先)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ●教員氏名、専門性(一部)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ●授業には実践に即した教材を使用 ●介護福祉士他、専門士の取得を目指す ●実習授業の実施 ●就職支援等への取組み(校外企業ガイダンス実施、企業等との連携による具体的な取組(介護実習))
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事への取り組み状況(山陰中央フェスタ) ●課外活動(ボランティア活動、部活動)
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生支援への取組状況(学生会館の整備)
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ●活用できる経済的支援措置の内容など(奨学金制度、教育訓練給付金制度、学費支援制度、学校独自の各種減免制度)
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ●収支計算書、貸借対照表(HPで公開)
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ●自己評価、学校関係者評価の結果 ●評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)情報提供方法 山陰中央専門学校パンフレット・マイキャンパスガイドブック・学生募集要項・ホームページ URL:www.sicc.ac.jp	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉士学科)平成30年度入学生																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			人間の尊厳と自立	人間の尊厳では人の個性を尊重することを理解する。自己選択・自己決定ができ自己実現に向けてその自立支援ができるよう学ぶ。	1前	30	2	○			○	○				
○			人間関係とコミュニケーション	人間関係の理解を基礎に、コミュニケーションの機能を理解するように支援する。介護福祉士として、援助関係形成のためのコミュニケーションの基礎的知識を備えるようにする。	1前	30	1		○		○	○				
○			社会の理解	個人が自立した生活を営む上で、家族や地域社会とどのような関わりがあるのかを学び、また、社会保障制度の役割や意義、発展の歴史を学ぶことで、介護サービス利用者の権利や生活を支える制度の仕組みについて学ぶ。	1前中	60	4	○			○	○				
○			生活文化	高齢者の家族観、家族構成、衣食住、消費生活の中の文化的、社会的、歴史的変化ではどのような生活文化であるか学習する。高齢者等消費者を守るための知識を習得する。	2中後	28	1		○		○	○				
○			地域福祉	地域の求められているものを踏まえ、個を支える地域をつくる視点、良い関係づくりの方法やよい雰囲気づくりの方法、また、一人ひとりの意欲の強化が行える支援ができる力を身につける。	2中後	60	3		○		○	○				
○			ビジネス能力	ビジネスとコミュニケーションの基本および仕事の実践について学ぶ。実際に介護現場で行う基本的なビジネス能力を養う。	1前	36	2	○			○	○				
○			介護福祉論Ⅰ	介護の歴史・概念を理解し、生活支援としての介護について理解する。自立に向けた支援を行うための視点について理解し、介護の専門性、介護職に求められるものが何か学ぶ。個別ケアの重要性、利用者のQOLを高める視点を学び、利用者が納得した自己選択・自己決定を支えることを理解する。	1通	90	6	○			○	○				
○			介護福祉論Ⅱ	専門職となる基本的な考え方や姿勢となる尊厳の保持や自立支援について学び、介護を必要とする人の生活を支える意義を深め、実践することを学ぶ。また、事例を通してケアプランやケアマネジメントの流れ、しくみを学ぶとともに他職種との連携を学ぶ。	2前中	90	6	○			○	○				
○			介護コミュニケーション技術Ⅰ	対人援助関係におけるコミュニケーションの基本を理解し、さらに介護場面における技法を習得する。	1前	30	1		○		○	○				
合計															科目	単位時間(単位)

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉士学科)平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			介護コミュニケーション技術Ⅱ	コミュニケーション障害の状態や原因について理解し、利用者の特性に応じたコミュニケーション方法を習得する。また、利用者やその家族、多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけることを学習する。	2前	30	1	○			○					
○			生活支援技術Ⅰ生活支援	家事援助を必要とする人の生活を重視し、個別性を尊重した援助を行うために、さまざまな家事介助の技法を演習を通じて習得する。	1通	60	3	○			○		○			
○			生活支援技術Ⅱ調理	調理の基礎、食品の調理を学び、調理の知識・技術を習得することや、栄養バランスが整った衛生的でおいしい食事の提供ができるように学習する。また、疾病に合わせた調理や食事形態に合わせた料理が適切に提供できるよう学習する。	2前中	40	2	○			○		○			
○			生活支援技術Ⅲ	さまざまな生活支援の援助方法の基礎知識や技術を学び、利用者の心身状況に応じた援助方法を根拠をもとにできる力を身につける。	1通	100	5	○			○		○			
○			生活支援技術Ⅳ	さまざまな生活支援援助の基礎知識や技術を学び、利用者の心身状況に応じ、根拠ある援助を実践する力を身につける。	2通	100	5	○			○		○			
○			介護過程論	専門知識・技術を根拠とした客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開を理解する。介護過程の展開に基づいた生活支援が「尊厳を守るケア」「個別ケア」を実現することを理解する。	1中	30	2	○			○		○			
○			介護過程演習Ⅰ	さまざまな利用者の障害や心身の状況に応じた事例を用い、利用者の支援における介護の実践的展開を理解するために介護過程を学ぶ。	1中後	60	3	○			○		○			
○			介護過程演習Ⅱ	さまざまな利用者の障害や心身の状況に応じた事例を用い、利用者の支援における介護の実践的展開を理解するために、介護過程を学ぶ。	2前中	60	3	○			○		○			
○			介護総合演習Ⅰ	I-1…実習の目的・意義を理解し、各自の実習目標・意識の明確化を図る。 I-2…課題の改善に向けた取り組みと、介護福祉士の必要な知識・技術の向上を目指す。	1通	100	5	○			○		○			
合計															科目	単位時間(単位)

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉士学科)平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護総合演習Ⅱ	介護計画を立案、展開、実施することで、介護過程の一連の流れを学ぶ。チームの一員として介護業務の理解を深める。	2前中	60	3	○			○		○		
○			介護実習Ⅰ(38日)	I-1…実習の目的・意義を理解するとともに、各自の実習目標・意識の明確化を図る。実習記録の目的・意義を理解し、日誌の書き方及び書き方のポイントを習得する。 I-2…明確化した課題改善に向けた取り組みと、介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指す。	1中後	304	7			○		○	○		○
○			介護実習Ⅱ(20日)	介護計画を立案、展開、実施することで、介護過程の一連の流れを学ぶ。チームの一員として介護業務の理解を深める。	2前	160	4			○		○	○		○
○			発達と老化の理解	人間の成長と発達について理解し、老化についての考え方や老化説について学ぶ。また、ライフサイクルの中の老年期とはどのような時期か理解し、どのような心理状態になっているかを学ぶ。	2前中	60	4	○			○		○		
○			認知症の理解Ⅰ	認知症について講義や視覚教材により理解し、認知症高齢者の生活を支援するために必要なサポ一体制について、家族や専門職の役割を学び支援の理解を深める。	1前	30	2	○			○		○		
○			認知症の理解Ⅱ	認知症の症状に合わせた対応方法が理解できる。	2前	30	2	○			○		○		
○			障害の理解Ⅰ	肢体不自由や内部障害・視覚障害・聴覚障害のある人の身体的・心理的影響について理解し、アセスメントの視野を学ぶ。	1中後	30	2	○			○		○		
○			障害の理解Ⅱ	障害の種類と特徴、心身と生活への影響を正しく理解する。障害のある人をサポートする社会資源の活用方法を習得する。関係する福祉職、保健、医療職とのチームアプローチの意義を理解する。家族をサポートする社会資源を知り、支援技術を習得する。	2前	30	2	○			○		○		
○			こころとからだのしくみⅠ	介護には保健・医療・福祉サービスを統合的・一体的に提供することが求められているため、医学一般の知識を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
○			こころとからだのしくみⅡ	身体各部の名称及び各基礎知識を学び、こころとからだに対して理解し、実際の介護に役立てる。	1前中	30	2	○			○		○		
合計					科目	単位時間(単位)									

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉士学科)平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			こころとからだのしくみⅢ	障害や加齢により生活に支障が生じた部分に働きかけ、安全・安楽に支援できる方法を習得する。	1 中後	30	2	○			○		○		
○			こころとからだのしくみⅣ	こころとからだの構造・機能を十分に理解し、利用者の可能性を見出し、人間としての尊厳と自立の守られたその人らしい生活支援について学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○		
○			医療的ケア(講義)	介護福祉士が喀痰吸引・経管栄養の医療行為の一部を業として行うことができるようになった背景等、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識を学ぶ。また、喀痰吸引・経管栄養の実施手順、留意点、救急時の対応方法などについて学習する。	2 中後	51	3	○			○		○		
○			医療的ケア(演習)	医療的ケアを安全に実施できるよう、喀痰吸引・経管栄養の実施、救急時の対応方法などについて学ぶ。	2 中後	30	1		○		○		○		
○			介護の理解Ⅰ(演習)	求められる専門性や職業倫理に基づいて。利用者の尊厳ある暮らしをどのように支えるか、社会保障制度の視点から総合的に学習する。	1 中後	40	2		○		○		○		
○			介護の理解Ⅱ(演習)	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病、認知症、障害を理解し個別性に応じた支援の仕方を学ぶ。	1 中後	20	1		○		○		○		
○			介護の理解Ⅲ(演習)	利用者とその家族とのコミュニケーションやチーム(職種内・他職種)のコミュニケーションの目的や役割と様々なコミュニケーションの技法を学ぶ。介護の基本的な考え方やこころとからだのしくみの基礎を学び、自立に向けた介護の基礎と生活場面において必要な介護技術を実践する。	1 中後	114	5		○		○		○		
○			アロマ	アロマセラピーの知識と基本的技術を学ぶ。	2 後	20	1		○		○			○	
○			音楽♪	・音楽に合わせて体操、トーンチャイム・打楽器(カスタネット、タンバリン等)でリズム活動、歌唱活動を学ぶ。 ・活動における目標設定、導入、主となる活動、締めくくりの流れを持った音楽活動の立案方法を実践的に経験し活動案(プログラムシート)の作成方法を学習する。	2 前	20	1		○		○			○	
○			ケア・コミュニケーション	・検定のテキストを中心に進めていく。利用者とのコミュニケーション、チームワークのコミュニケーションなど実践的な技術を学ぶ。 ・試験対策として過去問題を解いていく。	2 中後	40	2		○		○		○		
○			エクセル	・基本的なパソコン操作から学び、Excelの基本操作を学ぶことでパソコン操作に慣れることができる。 ・社会人として必要なデータ処理技術を習得することができる。	2 後	20	1		○		○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉士学科)平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			福祉社会Ⅰ	・マナーの大切さを理解し、集団行動としての協調性を養う。 ・日頃の授業の成果を発揮し、今後の活動に活かすことができる。 ・スポーツ大会を通じ、チームワークの大切さを知ることができる。 ・手話の概念、理論を知る、指文字や基本的な挨拶ができる。	1通	74	3	○			○		○	○	○
○			福祉社会Ⅱ	・マナーの大切さを理解し、集団行動としての協調性を養う。 ・日ごろの授業成果を発揮し今後の活動に活かすことができる。 ・スポーツ大会を通じ、チームワークの大切さを知ることができる。	2通	60	3	○			○		○	○	○
○			国家試験対策	介護福祉士国家試験過去問題に触れ、国家試験へ向けた学習に取り組むことができる。	1通	4	0	○			○		○		
○			国家試験対策	介護福祉士国家試験 過去問題等を繰り返し行い、実力をつけることができる。	2通	144	7	○			○		○		
合計			42科目		単位時間(119 単位)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
授業科目の履修又は単位取得の認定について 授業科目の履修の認定又は単位習得の認定は次の条件をともに満たした時に行うものとする。 (1)授業科目の実施授業時間数は、教育科目時間配分と出席時間が指定基準時間数以上出席していること。 (2)試験その他の審査による学習の評価が「C(可)」以上であること。								1学年の学期区分			3期				
								1学期の授業期間			16週				

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。